

令和4年度 福祉教育推進事業担当者会議

以下のとおりご確認と必要書類のご提出をお願いいたします。

- 1 令和4年度 福祉教育関係事業の年間スケジュール・・・資料1
※新型コロナウイルスの影響で変更する場合があります。
- 2 令和4年度福祉教育推進校事業の実施に伴う補助金交付申請書等の提出について（依頼）
○ご提出は郵送（交換便 NG）および電子メールでお願いします。
※提出書類をご確認の上、5月23日（月）必着でご提出ください。
- 3 福祉教育推進事業実施要綱・・・資料2
○児童・生徒を対象に社会福祉に関する実践学習の機会の提供や地域福祉活動への理解促進のため、1校につき上限3万円を交付します。
○要綱と予算執行に関する Q&A をご確認の上、必要書類を作成・ご提出ください。
※令和3年度からの変更はありません。
- 4 福祉教育推進校 様式 ダウンロード方法
○様式のデータ（Word）のダウンロードは記載のとおりです。
- 5 令和3年度 福祉教育推進校事業参加校事業実績一覧・・・資料2-1
○令和3年度に行われた各校の事業一覧になります。福祉教育推進のため各校の取り組みをご参考ください。
- 6 児童・生徒の福祉実践教室実施要綱・・・資料3
○児童・生徒が障がい者や高齢者などの当事者から話を聞いたり、実際に疑似体験する機会を提供します。授業までの流れについては「福祉実践教室の進め方」をご確認ください。
- 7 令和3年度 福祉実践教室実施状況・・・資料4
○令和元年度から令和3年度の実施校数、延べ日数、延べ体験者数の実績の比較と、体験科目別の前年度実績とを比較した実施状況です。
- 8 福祉実践教室教員向け研修会 日程表・・・資料5
○先生方に、福祉実践教室で行う授業を体験していただき、福祉実践教室の必要性や授業を行う際の注意事項などを知っていただきます。
- 9 「福祉」の授業に取り組まれる先生のためのハンドブック・・・資料6
○疑似体験を中心に行う福祉実践教室とは違い、当事者の生活や障がい

の特性などの話をしっかり聞き、疑似体験を行い、学びの振り返りを行うなど、「事前学習」、「疑似体験」、「事後学習」を一連のプログラムとして提供します。

検索：『岡崎市教育ポータルサイト OK リンク』の[各種出前講座](#)
➡[岡崎市社会福祉協議会](#)にハンドブック、申請書のデータがあります。

- 10 令和3年度 福祉教育プログラム実施状況・・・[資料7](#)
○令和元年度から令和3年度の実施校数、延べ日数、延べ体験者数、科目別実績を比較した実施状況です。

- 11 手話通訳者、要約筆記奉仕員派遣事業について
○児童・生徒や保護者に聴覚障がいがある方がいる場合に利用できる事業です。詳細はパンフレットと記入例をご確認ください。

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒444-0802 岡崎市美合町五本松 68-12 (岡崎市社会福祉センター1階)

TEL : 47-7955 FAX : 47-4956 E-mail : okashavc@m2.catvmics.ne.jp

令和4年度 福祉教育関係事業 年間スケジュール

時 期	内 容	
5月6日(金)	福祉教育推進校担当教諭会議 ・関係事業や事務手続き等の説明	Z o o m
5月中旬	福祉体験作文コンクール通知	
5月23日(月)	福祉教育推進校補助金交付申請書締切(必着)	
6月上旬	福祉教育推進事業補助金送金	
6月中旬	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール出品依頼	
8月2日(火) 5日(金)	福祉実践教室担当教諭研修会	社会福祉センター 第3活動室
9月上旬	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール応募締切	
9月16日(金)	福祉体験作文コンクール応募締切	
12月8日(木)	赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール優秀作品表彰式	社会福祉センター 多目的室
11月23日(水) ～ 11月27日(日)	赤い羽根作品コンクール作品展 ※学校推薦全作品	岡崎市美術館
2月中旬	福祉教育推進校事業実施報告書提出依頼文書の送付	
3月19日(日)	福祉まつり	むらさきかん
3月下旬	実施報告書等書類提出締切 (実績報告、事業報告、決算書、領収書)	

※新型コロナウイルスの影響で予定を変更する場合があります。

岡社協第 33 号
令和 4 年 5 月 2 日

福祉教育推進校長 様

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
会 長 太田 俊昭
(公 印 省 略)

令和 4 年度福祉教育推進校事業の実施に伴う補助金交付申請書等
の提出について (依頼)

新緑の候、貴職におかれましては御健勝のこととお喜び申し上げます。

日ごろは、当協議会事業の推進に多大な御理解、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和 4 年度福祉教育推進事業の実施について、補助金交付申請書等を
下記のとおり御提出くださいますようお願いいたします。

記

- 1 提出書類
 - ・福祉教育推進校事業補助金交付申請書 (様式 1)
 - ・事業計画書
 - ・収支予算書
 - ・振込先となる通帳のコピー (表紙、1 ページ目)
- 2 提出期限 令和 4 年 5 月 23 日 (月) 必着
- 3 提出先 岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター
〒444-0802
美合町五本松 68-12 (社会福祉センター1 階)
岡崎市社会福祉協議会 額田支所
〒444-3622
榎山町山ノ神 10-1 (ぬかた会館内)
- 4 その他 助成金については 6 月上旬に全額送金の予定です。

《お問い合わせ先》

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター [担当: 酒井・石川法]
電話 47-7955 FAX47-7956

福祉教育推進事業実施要綱

1 目 的

市内の小学校、中学校及び高等学校（公立、私立、高等部を含む）を福祉教育推進校として指定し、在校児童・生徒を対象に、社会福祉に関する実践学習の機会や活動しやすい環境を提供し、地域福祉活動への理解と関心を高め、ボランティア活動への参加をとおして広く国際的、人類的視野での人格形成を目指すとともに、人間に対する優しさと豊かな心を育て、社会連帯並びに地域社会との連携の精神を養うことを目的とする。

2 実施主体

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会（以下「社協」という）

3 主な活動内容

学校内、外において福祉活動として必要な「交流・体験」、「広報・啓発」、「収集・募金」、「参加の促進」に関する内容とする。（別紙1「活動内容区分」参照）

4 推進校の指定

当該事業の指定については、毎年度未指定校に対し希望調査を行い、福祉教育推進校の指定を希望する学校のなかから指定する。

指定を受けた学校は、申し出がない限り、毎年度継続して当該事業に取り組むものとする。

5 経 費

福祉教育推進校に対し、福祉教育推進事業にかかる経費を1校につき30,000円を上限に交付する。

学校長は、この経費を別に定める別紙2「助成金の使途例示」に基づき計画的かつ適正に執行しなければならない。

6 補助金の申請

補助金の交付申請については、福祉教育推進事業補助金交付申請書（様式1）に必要な書類を添付し、社協へ提出しなければならない。

7 交付決定

会長は、前条の申請を審査し、適当と認めた場合は、補助金交付通知書（様式2）を送付する。

8 事業実績報告書の提出

年度終了までに福祉教育推進事業精算兼実績報告書（様式3）に、必要書類を添付し、別に定める日までに社協へ提出しなければならない。

9 補助金の返還

会長は、申請団体が次の各号に該当する場合は補助金の交付決定額の全部もしくは一部を取消し、又は既に交付した補助金の全部もしくは一部を返還（様式4）させることができる。

- 1 この要綱又は交付決定に付した条件に違反したとき。
- 2 補助金を補助目的以外に使用したとき。
- 3 提出書類に虚偽の事項を記載し又は、補助金の交付に関し不正な行為があったとき。
- 4 決算額が補助額に比して減少したとき。
- 5 補助事業を中止したとき。

雑 則

この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は平成17年4月1日から施行する。

この要綱は平成20年4月1日から施行する。

この要綱は平成26年4月1日から施行する。

この要綱は平成31年4月1日から施行する。

【活動内容区分】

A 校内活動	① 交流・体験	<p>ア) 地域の高齢者（一人暮らし、老夫婦世帯等）へのお便り活動</p> <p>イ) 地域の高齢者、障がい者等を学校行事に招待又は、お話の講師として招く</p> <p>ウ) クラブ活動等による点字、朗読（テープ録音）、布の絵本作り</p> <p>エ) 福祉実践教室（点字、手話、要約筆記及び車いすガイド等）の開催</p> <p>オ) 点字、手話及び各種ガイド等のボランティア講座、看護・介助実習、体験事業の実施</p> <p>カ) 他の指定校や地域団体との各種交流会や勉強会、体験活動、合同催事</p> <p>キ) 各種交流や福祉体験活動</p>
	② 広報・啓発	<p>ア) 福祉に関する講演会、映画会、展示会、体験発表や活動報告会等の開催</p> <p>イ) 福祉に関する各種調査（校内の児童・生徒及び校外での意識調査等）</p> <p>ウ) 学校新聞（福祉新聞）、福祉ポスターや標語等の募集、福祉体験感想文、ボランティアニュースづくり</p> <p>エ) 国際理解と国際協力活動等</p> <p>オ) 各種福祉関係の広報、啓発活動</p>
	③ 収集・募金	<p>ア) ベルマーク、書き損じハガキ等の収集・整理</p> <p>イ) 赤い羽根募金、歳末たすけあいなどの募金活動</p> <p>ウ) 空き缶拾い、アルミ缶等のリサイクル運動の促進</p> <p>エ) ユニセフ、難民・開発途上国への募金・物品援助等</p> <p>オ) 各種収集、募金活動</p>
B 校外活動	① 交流・体験	<p>ア) 福祉施設等への訪問・交流（児童、高齢者、障がい者等）、施設行事への参加</p> <p>イ) 特別支援学校、ろう学校、盲学校との交流活動</p> <p>ウ) 一人暮らし高齢者宅への訪問、交流活動</p> <p>エ) 地域との連携、地域行事への参加</p> <p>オ) 各種交流や福祉体験活動</p>
	② 参加促進	<p>ア) ふくしま祭り、各種ボランティア講座、学習会、活動体験行事などへの参加</p> <p>イ) 福祉のまちづくり点検作業、地域福祉マップづくり</p> <p>ウ) 各種福祉関係の交流や体験活動への参加</p>

福祉教育推進校事業助成金の使途範囲

項	目	使	途			
会	議	費	飲み物、茶菓子代			
旅	費		事業に関わる担当教諭及び生徒・児童等の旅費			
謝	金		福祉講演会・研修会の講師			
事業費	消	耗	品	画用紙、原稿用紙、おりがみ、マジック、サインペン、鉛筆、絵の具、アルバム等の購入代		
	通	信	運	搬	ハガキ、切手等の購入、物品の運搬代	
	賃	借	料	会場等使用料		
	印	刷	製	本	費	活動報告集、感想文集等作成費、印刷物等諸費
	調	査	研	究	費	研修会等参加費、参考図書・資料購入代、映画・ビデオ等借上料
	役	務	費		ボランティア保険、行事用保険等	

※ 助成金の使途について

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の目的に添った適切な使途を心掛けてください。
<u>通常、学校の運営に必要となる物品の購入費用は認められません(清掃道具等)。</u> 2. 学校行事やPTA行事等の他経費との混同を避け、原則として福祉教育推進校事業独自の通帳で管理してください。 3. 旅費額等は、各学校の規程基準で執行してください。 4. 年度末に提出いただく実施報告書(経費内訳)には、領収書を添付してください。なお、領収書がとれないものについては、学校長の支払い証明書を添付してください。 |
|---|

(様式1)

第 号
令和 年 月 日

令和4年度 福祉教育推進事業補助金交付申請書

(宛先)
社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会長

所在地.....
学校名.....
校長名.....

令和4年度において、福祉教育推進事業を行うため、次のとおり補助金の申請をします。

1 補助申請額 _____ 円

2 事業目的

3 事業内容

- 4 添付書類
- ・福祉教育推進事業計画書
 - ・福祉教育推進事業収支予算書
 - ・振込先の通帳（表面と1ページ目）のコピー

5 補助金振込先

金融機関名	
支店名	
口座番号	普通預金 No.
フリガナ 口座名義	

令和4年度 福祉教育推進事業計画書

学 校 名			
所 在 地	岡崎市		
電 話 番 号	—	F A X 番 号	—
担当教諭名		郵 便 番 号	4 4 4 —
全校生徒数	名	学 級 数	クラス
学年別生徒数	1年生 名、 4年生 名、	2年生 名、 5年生 名、	3年生 名、 6年生 名

活動区分	事 業 名	実 施 月 日	参 加 生 徒 数	事 業 内 容
例) B-①-ウ	一人暮らし高齢者訪問事業	○月○日	○名	○年生が学区の対象者に手紙を書き、訪問して交流する。

※活動区分は別紙1「活動内容区分」をご参照ください。

令和4年度 福祉教育推進事業収支予算書

学校名 []

【収入の部】 (単位：円)

項 目	金 額	説 明
市社協補助金		
合 計		

【支出の部】

項 目	金 額	説 明
1 会 議 費		
2 旅 費		
3 講師等謝金		
4 事 業 費 内 訳	① 消耗品費	
	② 通信運搬費	
	③ 印刷製本費	
	④ 調査資料代	
	⑤	
	⑥	
	⑦	
5		
6		
7		
合 計		

(様式2)

岡社協第 号
令和 年 月 日

校長 学校 様

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
会 長

年度福祉教育推進事業の補助金交付の決定について（通知）

年 月 日付け第 号で申請のありました福祉教育推進校事業補助金について、下記のとおり交付決定しました。

記

- 1 補助金額 円
- 2 送金予定日 年 月 日

(様式3)

第 号
令和 年 月 日

令和4年度 福祉教育推進事業精算兼実績報告書

(宛先)

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会長

所在地.....

学校名.....

校長名.....

令和 年 月 日付け岡社協第 号で補助金等の交付決定を受けた事業が完了しましたので、次のとおり報告いたします。

1 補助金残額 _____ 円

2 事業効果及び課題.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

3 添付書類

- ・福祉教育推進事業報告書
- ・福祉教育推進事業収支決算書
- ・領収書（コピー）、資料等

令和4年度 福祉教育推進事業収支決算書

学校名 []

【収入の部】

(単位：円)

項 目	金 額	説 明
市社協補助金		
合 計		

【支出の部】

項 目	金 額	説 明
1 会 議 費		
2 旅 費 等		
3 講 師 等 謝 金		
4 事 業 費 内 訳	① 消 耗 品 費	
	② 通 信 運 搬 費	
	③ 印 刷 製 本 費	
	④ 調 査 資 料 代	
	⑤	
	⑥	
	⑦	
5		
6		
7		
合 計		

* 支出内容がわかる領収書（コピー）を添付してください。
 交通費等領収書の無い場合は、学校長の証明を添付してください。

(様式4)

岡社協第 号
年 月 日

校長 学校 様

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
会 長

年 月 日付けで交付決定した福祉教育推進事業補助金について、福祉教育推進事業実施要綱に基づき下記のとおり補助金の返還を請求します。

記

1. 補助金返還決定額 金 円

2. 返 還 の 理 由

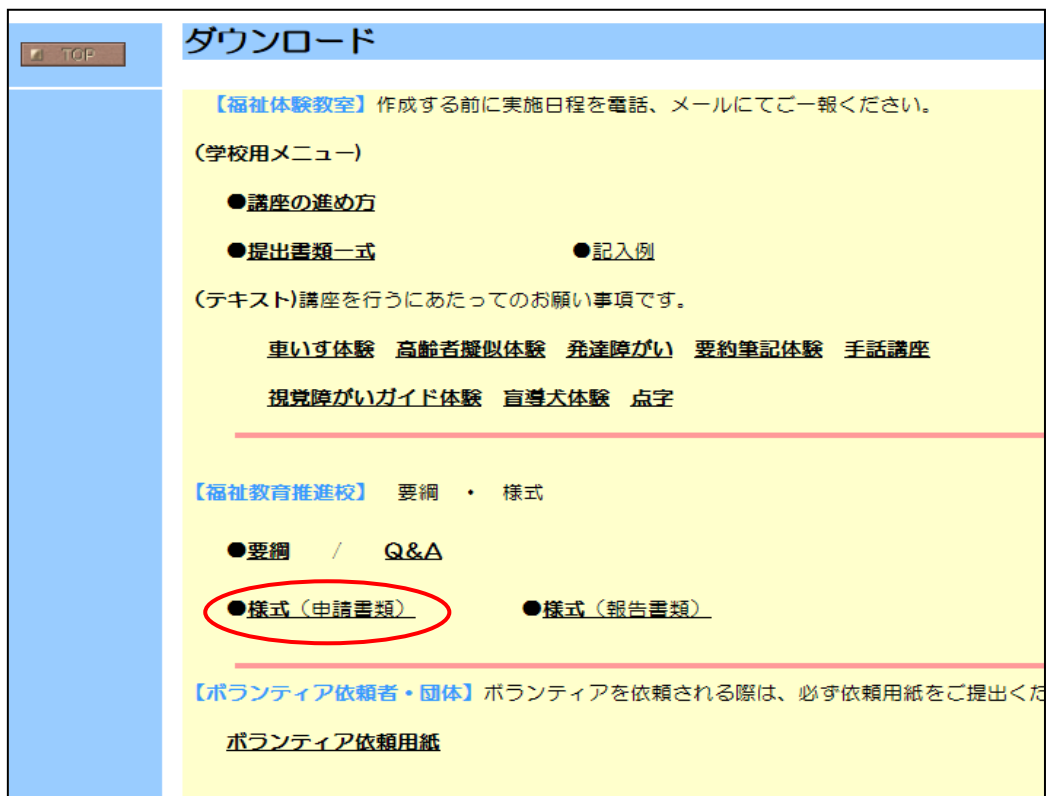
3. 返 還 期 日 年 月 日

福祉教育推進事業 予算執行に関するQ&A

区分	内 容
物品購入	Q. 高齢者施設へ生徒が訪問する際に和太鼓を叩く。その太鼓のばちの購入費用として充ててよいか。
	A. 認められません。太鼓は日ごろの学校活動の中で取り組まれている文化伝統の継承であり、福祉にかかる費用とは認められません。
	Q. デジタルカメラを購入したい。
	A. 認められません。 原則、学校の備品となるものの購入に充てることはできません。
	Q. 校外の美化活動のための清掃道具を購入したい。
	A. 認められません。通常の学校活動で使用するはずの清掃道具を本事業で購入することはできません。
	Q. パソコンのインクを購入したい。
	A. 印刷物があるのであれば認められます。
	Q. 補助金で車いすを購入し、施設に寄付したいが認められるか。
	A. 補助金を他団体等への寄付（物品含む）、補助に充てることは認められません。
	Q. 学校の緑化活動のための花の苗や腐葉土の購入は認められるか。
	A. 学校の緑化活動が目的の購入は認められません。
講師料等	Q. 社協を介さずに福祉の体験講座を実施した。その際の講師料として充ててよいか。
	A. 認めます。しかし、福祉実践教室での取り扱いがふさわしいと思われる授業については、次年度から福祉実践教室として取り組まれるようお願いいたします。
	Q. 福祉実践教室の講師にガソリン代等の交通費を支払ってよいか。
	A. 講師にかかる費用は社協が支払っています。そのためガソリン代やバス代等を本事業の補助金からお支払いいただくことはできません。ただし、本事業の予算ではなく、学校独自の予算で交通費等の支払いをされる場合には、社協が介入することはありません。
	Q. 福祉実践教室の講師に出したお茶菓子の代金は認められるか。
	A. 認めます。また、少額の手土産についても認めます。社会通念上、認められると思われる範囲に限ります。
	Q. 講師の方への花束（花鉢）のプレゼントは認められるか。
	A. 認められません。 プレゼントのために計画的に学校で育てた花であれば認めます。
会計の処理	Q. 補助金の一部が余ってしまったがどのような手続きが必要か。
	A. 補助金の精算報告書に補助金残額をご記入いただいた場合、その金額の返還請求書を学校へお送りしますので、それに基づき返戻してください。
	Q. 領収証の合計額が 30,000 円を超えてしまうが…。
	A. 本会からの補助金が何に使われたかを明瞭にいただければ、領収証の金額が 30,000 円を超えるものでも構いません。

福祉教育推進校 様式 ダウンロード方法

- ①「岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター」で検索
- ②トップページの「ダウンロード」をクリック
- ③福祉教育推進校 「様式（申請書類）」をクリック



No	学校名	区分	事業名	内容
1	梅園小学校	A-②-オ	JRC入会式	ボランティア活動の意義や重要性について考える会
		A-③-イ	赤い羽根募金活動	委員会による赤い羽根配布と募金活動
		A-③-エ	服のチカラプロジェクト	古着の回収、開発途上国への物品援助
2	根石小学校	A-③-ア・ウ	ベルマーク、ペットボトルキャップ、プルタブの収集活動	収集し、災害地援助やワクチン、車いす購入の援助に役立てた
		A-①-ア	学区のお年寄りへの手紙	敬老会参加のお年寄りに手紙を書き、祝意と感謝の気持ちを届けた
		A-①-オ	福祉実践教室	車いす、高齢者体験、視覚障がいガイドや手話を学んだ
3	男川小学校	A-①-カ	ボランティアによる読み聞かせ活動	学区ボランティアサークル「もこもこ」による本の読み聞かせ活動
		A-③-イ	赤い羽根募金	募金を全校に呼びかけ、代表委員が回収、集計
		A-①-キ	パラスポーツ体験	5年生がパラスポーツ「ボッチャ」「ゴールボール」を体験
4	美合小学校	A-①-カ	アイシン環境プログラム	アイシンの方から、真水の貴重さ、野生生物への環境の影響を学び、生活を見直した
		B-①-エ	敬老会(分分会场)	学区のお年寄り約900人の方へ長寿を祝う手紙を書き、配付した
		B-①-エ	ホテル放流会	ホテル保存会の方から、ホテルの保護活動の意義を聞き、蛍の幼虫を放流した
5	緑丘小学校	A-①-ア	学区敬老会	地域の高齢者宛に絵手紙を作成し、学区の記念品とともに届けた
		B-①-ア	施設訪問	コロナ禍だったため、高齢者センターで演奏会する予定だった演奏をDVDで送った
		A-①-キ	山本萌恵子選手へ応援メッセージ	本校卒業生のパラリンピック出場選手に応援メッセージを送った
6	羽根小学校	A-①-イ	地域の方へのインタビュー及び情報収集	社会福祉施設の利用者や職員から、日常生活の困り事や介助内容を学んだ
		B-①-ア・ウ	高齢者との交流	施設の高齢者の方とオンラインで交流し、レクなどをした
		A-①-オ	色の見え方講座	色覚異常や白内障の方など色の見え方の違いやユニバーサルデザインを学んだ
7	岡崎小学校	A-②-ア	医療従事者にインタビュー	医療センター看護師の方と、オンラインで講話と職業インタビューを行った
		A-①-エ	福祉実践教室	車いす、点字、視覚障がいガイド、高齢者疑似体験をした
		A-③-エ・ア・	ペットボトルキャップ、ベルマーク、プルタブ収集運動	収集し、災害地援助やワクチン、車いす購入の援助に役立てた
8	六名小学校	A-①-ア	学区お年寄りへの手紙	学区のお年寄りに手紙を書いて渡した
		A-①-キ	交通指導員感謝の会	交通指導員さんに日頃の感謝の気持ちを伝える
		B-①-ウ	学区老人介護施設訪問	介護施設に手紙や折り紙をプレゼントした
9	三島小学校	A-①-エ	福祉実践教室	4年生が盲学校の教員から盲学校の様子や点字、アイマスク体験を学んだ
		A-①-エ	福祉実践教室	4年生が盲学校の子どもたちと、オンラインで楽器演奏をしたり、クイズで交流をした
		A-①-エ	福祉教育プログラム	5年生が手話、車いす、高齢者疑似体験について学んだ
10	竜美丘小学校	A-①-エ	福祉実践教室	講師を招いて、車いすや高齢者疑似体験をした
11	井田小学校	A-①-イ	学区のおじいさん、おばあさんと遊ぶ会(ふれあい文化祭)	児童と学区の方々が美術作品を通して交流する
		A-①-カ	井田学区老人クラブ連合会草取り奉仕活動	6年生が学区の老人クラブ連合会の方と一緒に、校内の清掃活動を進める
		A-①-ア	地域のお年寄りとの交流	地域のお年寄りに、感謝を込めた手紙を送る
12	愛宕小学校	B-①-エ	学区文化祭	児童と地域の人の作品を出品し、鑑賞交流をした
		A-①-ア	敬老会	児童がお手紙を書き、交流した
		A-②-オ	愛宕人権週間	映像教材を用いて、障がい者と高齢者について学び、人権集会も行った
13	福岡小学校	A-①-イ	ふくふくタイム	1年生が地域のお年寄りや昔遊びを通して交流した
		B-①-エ	敬老詩集贈呈	全校児童が敬老の詩を書き、詩集としてまとめ、全敬老者に贈呈した
		B-①-ウ	独居老人激励(絵手紙)	5年生が学区の独居老人を励ます絵手紙を書き、福祉委員会を通じて贈呈した
14	竜谷小学校	A-①-イ	高齢者との交流活動	高齢者を講師として招き、交流した
		B-①-エ	竜谷っ子ピカピカ大作戦	地域の人と、学区でよく利用している施設の周辺を清掃した
		A-①-イ	学校ボランティア感謝の会	交通指導員、安全パトロール隊、読み聞かせボランティア、給食補助員などに感謝の手紙を書いて届けた
15	藤川小学校	A-①-エ	福祉実践教室	4年生が視覚障がいをもつ人の特性の話を聞いたり、点字や要約筆記の体験をした
		A-①-キ	米作り・むらさき麦作り感謝の会	地域の方々の支援と指導を受け米やむらさき麦作りを体験し、お世話になった方へ感謝の気持ちを伝えた
		B-①-ア	藤花荘、第二藤花荘との交流	3・4年生が思いを書いた手紙を送って交流した
16	山中小学校	A-①-キ	ふれあい交流	特別支援学級の児童を誕生日会に招いて交流した
		A-②-エ	聖火交流会	オリンピック聖火ランナーのモンゴルの方を招いて、体験談やトーチ披露による国際交流をした
		A-①-オ	感謝の会	交通指導員や見守り隊などの代表の方へ感謝の気持ちを表し、育てた花をプレゼントした

小学校

17	本宿小学校	A-①-イ	学区敬老会	学区の敬老者に対してお祝いの手紙を届けた
		A-①-イ	SSV感謝の会	登下校サポートや読み聞かせボランティアの方へ感謝を伝える会を開いた
		B-①-イ	特別支援学校との交流活動	岡崎特別支援学校の児童と、学年行事等の紹介交流をした
18	生平小学校	B-①-ウ	一人暮らしのお年寄り宅へプレゼント	コロナ禍だったため、代表宅にのみ訪問し、色紙と鉢花をプレゼントし交流を深めた
		A-①-イ	お年寄りから昔の遊びを学ぶ	老人クラブの方に昔の遊びを教してもらいながら一緒に活動した
		A-①-イ	ふるさと学習・ふれあい餅つき大会	コロナ禍だったが、規模縮小し、地域のお年寄りと交流しながら餅つき大会を実施した
19	常磐南小学校	B-①-エ	学区敬老会	会は中止になったが、祝いのメッセージを記したしおりを作成し、プレゼントした
		A-①-キ	ときなん祭の動画配信	伝統文化の雅楽・和太鼓クラブの発表を動画配信した
		A-①-キ	感謝の会	会は中止になったが、見守り隊や読み聞かせなどでお世話になった地域の方々に感謝の手紙を贈呈した
20	常磐東小学校	A-①-ア、キ	敬老会	学区の高齢者に感謝の気持ちを込めた手紙を届けた
		A-①-キ	青木川などの掃除	学校前の青木川を地域、児童、職員が協力しながら清掃した
		A-①-イ	感謝する会	感謝の気持ちを込めて地域の方々に感謝状や手紙を贈った
21	常磐小学校	A-②-エ	国際協働学習	5年生が海外の学校と交流し、世界に訴えたい思いを絵に表し、壁画を共同製作した
		A-③-イ	赤い羽根共同募金	代表委員会が中心となり、全校に呼び掛けた
		A-①-イ	交通ボランティア感謝の会	交通ボランティアの方々を招待し、全校に紹介した
22	恵田小学校	A-①-キ	交流活動	各学年年1回、岡壘の児童と交流活動を行った
		A-①-キ	落ち葉スキー交流・開場式	開場式に岡壘の4・6年生を招待し、その後各学年が交流し理解を深めた
		A-①-キ	収穫感謝祭	ブドウ作り・米作りの発表やキウイ販売、餅つきなどで地域の方と交流した
23	奥殿小学校	B-①-オ	JRCふるさとクリーン作戦Ⅰ、Ⅱ	学区内施設清掃活動
		A-①-キ	もち花づくりの会	もち花を学区内施設へ配布
		A-①-イ	感謝の会	お世話になった地域の方々への記念品の贈呈
24	細川小学校	A-①-イ	昔遊びを通じた交流会	学区敬老クラブと昔遊びを学びながら交流した
		A-①-イ	伝統芸能伝承活動	地域に伝わる御殿万歳、チャラボコ太鼓を学んだ
		B-①-ア	奥殿陣屋イベントの出演	福祉委員会を中心にペットボトルキャップやベルマークを回収した
25	岩津小学校	B-①-イ	県立岡崎聾学校との交流	持久走大会や作品の交換展示、オンラインを使って交流を図った
		A-①-ア	学区のお年寄りへの手紙	敬老の手紙を書き、送付した
		B-①-イ	みあい特別支援学校との交流	居住地交流や製作活動を通して交流した
26	大樹寺小学校	A-①-ア	学区敬老会	会は中止になったが、お祝いの手紙と収穫した種を送付した
		B-①-イ	ろう学校との交流	一緒に絵や工作をし交流した
		A-①-イ	交通指導員さん感謝の会	交通指導員さんに日頃のお礼の手紙を書いて渡した
27	大門小学校	B-①-エ	学区公園清掃活動	学区の公園を地域の方々と一緒に清掃した
		B-①-エ	しめ縄広報活動	4年生が学区の方々と一緒に、しめ縄組合から寄贈されたしめ縄にメッセージを添えて道路を通行するドライバーへ配った
		A-③-オ	プルタブ収集活動	収集活動をし、岡崎中央ライオンズクラブの活動に生かすために送った
28	矢作東小学校		コロナ感染拡大予防のため中止	
29	矢作北小学校	A-①-キ	福祉実践教室	高齢者や障がい者体験をし、自分に何ができるか考えた
		A-③-イ	赤い羽根募金	全校児童で赤い羽根募金を実施した
		A-①-イ	学区のボランティアさん感謝の手紙	お世話になっている交通指導員さんや地域の方へ、お礼の手紙を届けた
30	矢作西小学校	A-①-ア	敬老活動	全校児童よりお祝いの手紙を送った
		A-③-イ	赤い羽根募金	学級委員が全校児童に呼びかけ、募金活動を行った
		A-①-エ	福祉実践教室	5年生が車いす、高齢者体験を行い、自分にもできる手助けを考えた
31	六ツ美北部小学校	B-①-オ	占部川の掃除活動	4年生が総合授業で、占部川の現状を知り、清掃活動を行った
		A-①-キ	福祉	6年生が車いす、アイマスク、視覚障がい者補助体験を行った
32	六ツ美南部小学校	A-③-オ	ペットボトルキャップ回収運動	JRC委員を中心に、ワクチン購入を目標としたキャップ回収運動を実施した
		A-①-エ	福祉実践教室	外部講師を招いた福祉実践教室の実践をした
		A-①-キ	交通安全防犯感謝の会	お世話になっている交通指導員やボランティアに感謝を伝える会を実施した
33	城南小学校	A-①-イ	城南学区敬老会	会は中止になったが、手紙を書いて長寿をお祝いした
		A-①-エ	福祉実践教室	車いす、視覚障がい者、高齢者体験を行った。城南cityカーニバルでは調べたり、交流から感じたことを発信した
		A-①-キ	学校ボランティアさんへの感謝の会	会は中止になったが、花束や手紙をを代表児童が届けた

34	上地小学校	A-③-エ	服のチカラプロジェクト	竜南中と協力し、ユニクロ主催の古着の回収活動をした
		A-①-エ	福祉実践教室	手話・車いす体験・高齢者疑似体験・視覚障がい者ガイドの体験を行った
		A-③-ア	ベルマーク収集	委員会の呼びかけにより、収集し整理した
35	小豆坂小学校	B-①-エ	「歩こう会」との交流	地域のゴミ拾いをしながら交流を深めた
		A-①-イ	敬老会	全校児童や音楽部、ドリル部による発表や交流をした
		A-①-イ	感謝の会	スクールカード、読み聞かせなど、日頃お世話になっている方へ感謝の手紙を渡した
36	北野小学校	A-①-エ	福祉実践教室	高齢者疑似体験サポートクラブの方から講話を聞き、歩行体験・豆つかみ体験をした
		A-①-カ	出前講座 認知症サポーター養成講座	長寿課やはしめ包括支援センターの方から、認知症の方への接し方を学んだ
		A-②-ア	総合(福祉)学習発表会	福祉について学んだことや考えたことを、3年生がお世話になった人に発表した
37	六ツ美西部小学校	A-①-エ	福祉実践教室	認知症サポーターの方を呼び、高齢者の疑似体験を通して福祉について学んだ
38	連尺小学校	A-②-オ	リサイクル運動	ビニール袋を着用し、コロナ感染予防対策しながら資源回収活動を毎月行った
		B-①-エ	学区クリーン作戦	校地内、公園、川緑道、道路などの掃除をした
		A-①-イ	しおり作り	学区の高齢者の方に、手作りのしおりをプレゼントした
39	豊富小学校	A-①-キ・エ	米作り体験・販売活動	福祉委員の方に指導を受けながら、学校の近くの田で米作りを行った
		A-①-カ	野菜の種まき体験	牧鹿会と野菜の種まきを通して交流した
		A-③-イ	赤い羽根募金活動	生活委員が中心となり、全校で募金活動を行った
40	夏山小学校	A-①-カ	農業体験	地域の方と一緒に色々な作物を栽培し、収穫したものを調理して食べ交流を深めた
		A-①-キ	鮎つかみ取り・塩焼の会	地区の福祉委員会の主催で、鮎つかみ取りをし、地域の方と交流しながら会食した
		A-①-カ	餅つき会	育てたもち米を使い、地域の方と一緒に餅つきをして、雑煮を作り、地域の方に振舞った
41	宮崎小学校	A-①-イ	お茶摘み会	今年度も高齢者グループは参加できなかったが、児童のみで茶摘み体験をした
		A-①-カ	みやざき敬老まつり(学区敬老会)	会は中止になったが、メッセージと茶葉の配布を実施した
42	形埜小学校	A-①-イ	ササユリ、ウサギ、カブトムシを育てる	地域の方を講師に迎え、育てた
		A-①-キ	地域の方へ花の鉢植えをの贈呈	登下校を見守ってくれる地域の方へ、花の鉢植えを贈り、感謝の気持ちを伝えた
		A-①-イ	高齢者との交流	地域の高齢者の方から、グランドゴルフの技を学んだ
43	下山小学校	B-①-イ	ササユリ交流(リモート)	事前にササユリのプレゼントをし、クイズやゲームで交流した
		A-①-イ	地域住民との田植えや稲刈り交流	地域住民と田植えや稲刈りで交流した
		B-①-イ	盲学校との交流会	盲学校でのベア交流を行った
1	甲山中学校	A-③-ウ	赤い羽根募金	赤い羽根募金を行った
		A-③-オ	アルミ缶、ペットボトルキャップ、ベルマーク回収活動	回収活動をし、収益金を寄付したり、車いすの交換やワクチン購入にあてた
		A-③-エ	ユニセフ歳末助け合い	募金活動を行った
2	美川中学校	B-①-ア	福祉施設等への訪問・交流事業	育てた野菜を学区内の社会福祉施設に届けた
3	南中学校	A-①-ア	地域の高齢者宅訪問	お年寄りの家に手紙を届けつながらを回った
		A-②-ウ	地域防災マップの作成と配付	マップを作成し3月最終週に学区へ配布する予定
4	葵中学校	B-①-エ	伊賀川プロジェクト	伊賀川を清掃し、花の球根を植え、地域環境福祉に貢献した
		A-③-オ	ひまわりプロジェクト	資源回収や、募金活動を行い、被災地支援、福祉活動に貢献した
5	城北中学校	B-①-ウ	長寿者訪問	長寿者宅へ訪問し、育てた花を贈り、長寿を祝うとともにお話を伺った
		A-③-ウ	資源回収	各家庭で集めたものを回収した
		A-①-キ	地域清掃活動	奉仕作業を行った
6	福岡中学校	A-③-オ	生徒会主催資源回収	ブルタブを団体へ寄付、エコキャップでワクチンを送る活動に参加
		B-②-ア	研修会参加	少年刑務所講師の講演を教員が聞き、自己肯定感と自己表現の大切さを学んだ
		A-③-イ	赤い羽根募金活動	赤い羽根募金活動に参加した
7	東海中学校	B-①-イ	特別支援学校との交流(ZOOM)	お互いの自己紹介や学校紹介のDVD制作
		A-①-エ	福祉実践教室	車いす体験や点字体験などを行った
		A-③-イ	障がい者の講師を招く	車いすで生活をされている方の講話

中学校	8	河合中学校	A-①-ウ	かわいの里ケアハウス交流	ブッシュステンドやメッセージカードを送って交流した
			A-①-キ	ポッチャ体験人権教室	講師を招き、パラリンピック種目「ポッチャ」体験活動を行った
			A-②-エ	オンライン交流会	国際理解のために、タイにある「スナナリーウィタヤ校」とZOOMで交流した
	9	常磐中学校	A-①-ア	ふれあい教室	絵手紙制作を行い、作品を長寿者地域交流でプレゼントした
			B-①-エ	滝山寺清掃ボランティア活動	滝山寺を清掃し、学区への愛着を深め、勤労意欲を高めた
			B-①-エ	キーホルダー販売活動	販売するキーホルダーを作成し、販売は行わず、福祉施設へ寄贈した
	10	岩津中学校	A・B-①-イ	岡崎聾学校との交流	岡崎聾学校と、交流レクを実施した。
			B-①-エ	岩中ボランティアデー	岩津城址や学区の掃除を実施した。
			A-②-オ	岡崎聾学校との作品交流	岡崎盲学校中学部の美術作品を武道場に展示した。
	11	矢作中学校	A-③-ウ	ペットボトルキャップ回収	ペットボトルキャップ回収を通してリサイクル活動に貢献した
			B-①-エ	学区美化活動	学区の美化活動を通じて、ボランティア活動を体験した
			A-③-イ	赤い羽根募金	全校で赤い羽根募金活動に取り組んだ
	12	新香山中学校	B-②-ウ	ササユリ保護活動	ササユリの栽培と学区の保護区の保護活動を実施した
			A-③-イ	緑の募金	緑化推進を全校に呼びかけて募金活動を展開した
			B-①-ア	ササユリ訪問	教育長や北部地域支援センターにササユリを贈った
	13	竜南中学校	A-③-エ	服のチカラプロジェクト	地域や学区の小学校等に声かけし、古着を集め、企業を通して難民キャンプへ送った
A-③-イ			赤い羽根募金活動	募金活動を行った	
B-①-イ			みあい特別支援学校との交流	Zoomを使って、クイズを出し合い交流した	
14	北中学校	A-③-ア～オ	ベルマーク、アルミ缶などの収集と募金活動	被災地支援のための各種収集活動や募金活動を行った	
		A-①-キ	クリーン輝北中	学区内の掃除活動	
		A-②-ウ	福祉ポスター・教護・体験作文応募	大門学区明るい町づくり作品、岡崎市明るい社会づくり作品、人権を理解する作品	
15	六ツ美北中学校	A-③-イ	赤い羽根募金	募金の意義を周知した上で、赤い羽根の共同募金を行った	
		B-①-ア	手づくりエコバックの販売・寄贈	特別支援学級の生徒を中心にエコラフトバックを作成し、寄贈した	
16	翔南中学校	A-①-キ	読み聞かせの会	ボランティアさんによるリモートで行う読み聞かせ活動	
		A-①-キ	絆を深める会	言葉の重みを深く考え、思いやりの心を育てる会	
		A-③-オ	ペットボトルキャップ回収	ワクチンを寄付するためにペットボトルキャップを収集した	
高等学校	1	岡崎西高等学校		コロナ感染拡大防止のため、すべての事業は中止	
	2	岡崎東高等学校	A-③-オ	災害募金	豪雨災害の募金を行い、提出した
			B-①-イ	岡崎特別支援学校の作品展や交流会	作品の展示や、ZOOMで互いに考え合ったゲーム等を行い交流した
			A-③-イ	赤い羽根募金運動	募金を行い、ポスター制作などを行った
	3	岡崎商業高等学校	B-①-イ	学校間交流会。高校生による出前授業	岡崎聾学校へプログラミング出前授業
	4	岡崎工科高等学校	B-①-エ	交通安全ボランティア活動	周辺の小学校への登校時の交通安全活動
	5	岡崎学園高等学校	B-①-オ	ふれ愛ときめきフェスティバル	南三陸復興市
			A-③-オ	ペットボトルキャップ回収	ペットボトルキャップ49.7kg(ポリオワクチン25人分相当)
	6	岡崎城西高等学校	B-①-ア	きらキッズ・きららぶち	おもちゃ図書館きらら主催による発達障がい児支援活動
B-①-ア			放課後等デイサービスげんきでの発達障がい児支援	放課後等デイサービスげんき主催による発達障がい児支援活動	
B-①-オ			ゴミ拾い	光ヶ丘女子高、岡崎学園インターアクトクラブとの合同ごみ拾いをした	
7	光ヶ丘女子高等学校	B-①-ア	奉仕活動	近隣清掃、手作りクリスマスカードを福祉施設へプレゼントした	
		B-①-イ	岡崎盲学校と交流	スポーツで交流・触れるカレンダー贈呈	
		B-①-オ	各福祉施設へのプレゼント	各福祉施設への手芸品プレゼント	
8	愛産大三河高等学校	A-③-オ	学校周辺清掃活動	清掃活動	
		A-③-オ	ペットボトルキャップ回収	回収活動	
		A-③-イ	赤い羽根募金	募金活動	

小 中 高 等 学 部	1	岡崎盲学校	A-①-キ	小学校交流	下山小の児童が来校し、一日を過ごした。劇、合唱、カードゲームで交流をした
			A-①-キ	中学部交流	オンラインで点字のメ書き競争や点字早読みリレーを行った。
			A-①-キ	高等部交流	光ヶ丘女子高と、風船バレーやダンスで交流をした
	2	岡崎聾学校	B-②-ウ	ボランティア活動	保護者、中学部、高等部生徒、西阿知波地区住人合同の地域清掃活動
			A-①-キ	マラソン大会交流	岩津中学校のマラソン大会の参加
			A-①-キ	学校間交流会	東京都立葛飾ろう学校とのオンライン交流
	3	岡崎特別支援学校	A-①-カ	岡崎東高との交流	オンラインでレクリエーションを実施。ポスター交流
			A-①-カ	三谷水産高校との交流	オンラインでレクリエーションを交流
			A-①-カ	東海中との作品交流	本校作品展、東海中作品展にて展示
	4	みあい特別支援学校	A-③-オ	エコキャップ収集活動	エコキャップ収集を行い、回収会社を通してアフリカの子どもたちへポリオワクチンを贈る
			A-①-カ	中学部学校間交流	竜南中と手紙交流・ビデオ交流した
			A-①-カ	絵手紙交流	絵手紙を送って交流した
	5	愛知教育大学付属特別支援学校	A-①-カ	サツマイモ交流	付属小学校の児童とサツマイモを通して交流。収穫した焼き芋を付属小に届けた
			B-①-イ	高等部交歓会	学校紹介の動画作成し、三重大付特に送った。本校の作品製品を送った
			A-①-カ	手づくりポストを使った交流	ふれあいポストを活用し、付属岡崎小と手紙やビデオレターの交換を行った

児童・生徒の福祉実践教室実施要綱

1. 目 的

福祉実践教室は、児童・生徒が障がい者・高齢者から講話を聞き、実際に疑似体験することによりさまざまな人が暮らしている地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育み、『人にやさしいまちづくり』として日常的な福祉活動を実践するための契機として開催する。

2. 実施主体

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター

3. 実施対象

岡崎市社会福祉協議会の指定を受けている福祉教育推進校及び福祉実践教室の目的に賛同し、実施を希望する小・中・高等学校等（以下「実施校」という。）の児童・生徒。

4. 実施期間

4月1日～3月31日

5. 実施内容

車いすガイド、手話、点字、要約筆記、視覚障がい者ガイド、高齢者疑似体験、盲導犬、発達障がい、いじめ防止

6. 申 請

原則として、実施日の2ヶ月前までとする。

7. 経 費

この事業に要する経費は、岡崎市社会福祉協議会の負担とする。

8. 手続き及び詳細については、裏面『福祉実践教室のすすめかた』参照のこと。

【お問い合わせ先】

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL 0564-47-7955 FAX 0564-47-7956

E - mail okashavc@m2.catvmics.ne.jp

URL http://home1.catvmics.ne.jp/^oka_sha/

福祉実践教室のすすめ方

福祉実践教室の目的にもあるとおり、各メニューには必ず「対象者」がいます。その対象者がどのような状態にあって、どのようなサポートが必要なのか？を起点として紹介させていただいているメニューであることをご理解いただいたうえ、所定の手続きをお願いいたします。

①福祉実践教室の開催候補日、実施希望科目をある程度考えていただいたうえ、社会福祉協議会ボランティアセンターまでお申込みください。申込期限は実施日の2ヶ月前です。

②担当教諭と社協担当者との打ち合わせ

- ・ 電話でのお申し込みの場合、後日来所いただくよう日程調整をさせていただきます。
- ・ 来所申し込みの場合、同時に打ち合わせを行います。

③日程、講師の決定

社会福祉協議会ボランティアセンターと講師団体とで日程を決定し、結果を学校へ連絡いたします。

④講師の決定

各科目の講師を社会福祉協議会ボランティアセンターで調整し、決定いたします。講師の決定後、当日の講師の氏名、講師の所属団体長（担当者）の氏名と連絡先を学校にお知らせします。講師の所属団体長（担当者）と授業の詳細について打ち合わせを行ってください。

⑤実施計画書の作成及び提出

実践教室様式①-1～③をボランティアセンターホームページの【ダウンロード】→【提出様式一式】からダウンロードし作成してください。提出については、社会福祉協議会ボランティアセンターにメールにて提出してください。

⑥用具の貸出しについて

実践教室で必要となる車いすや点字板等は社会福祉協議会から貸出し可能です。原則として実施日の前日に福社会館まで取りに来ていただき、当日返却をお願いします。

⑦講師の送迎について

講師の送迎を学校にお願いする場合があります。

⑧講師料について

講師料は、社会福祉協議会が負担します。

⑨実施報告書の提出について

実践教室実施後2週間以内に、実践教室様式④をボランティアセンターホームページよりダウンロードして社会福祉協議会ボランティアセンターに提出してください。

令和3年度 福祉実践教室実施状況

R3年度実績

小学校・・・7校
 中学校・・・1校
 高校・・・2校
 合計・・・10校
 (延べ開催日数14日)
 延べ 3,358人
 中止・・・4校

R2年度実績

小学校・・・13校
 中学校・・・1校
 高校・・・0校
 合計・・・14校
 (延べ開催日数18日)
 延べ 2,727人
 中止・・・1校

R1年度実績

小学校・・・20校
 中学校・・・2校
 高校・・・4校
 合計・・・26校
 (延べ開催日数40日)
 延べ 6,924人

【科目別】(延べ)

科目	日数	時間数	人数
車いす	8	15	538
手話	7	15	446
要約筆記	5	10	271
点字	7	15	456
盲導犬	2	2	189
視覚障がい者ガイド	9	19	596
発達障がい	1	1	30
高齢者疑似体験	9	18	633
いじめ防止	0	0	0
全体講話	2	2	199

(前年度実績)

日数	時間数	人数
13	25	818
5	9	284
2	3	92
9	16	468
0	0	0
10	17	517
0	0	0
9	18	548
0	0	0
4	4	337

【学校からの感想】(一部抜粋)

●小学校

- ・事前の学習は学校で行っていたが、講師の先生から始めに生活のことなどお話しただけだったので充実した体験になった。
- ・実際の障がいのあるかたに関われる機会があまりないので貴重な時間になった。
- ・先生のお話しもわかりやすく、体験も丁寧に教えてもらったのでわかりやすかった。
- ・困っている人がいたらお手伝いしたいと思った。
- ・障がいのある人や高齢者も大変だと思ったけど、一緒に歩く人や車いすを押すのも簡単ではなかった。

●中学校

- ・生徒の希望で聴覚障がいに関する授業を実施した。体験もさせていただきながら、生活の工夫などもお話しいただき、貴重な時間となった。

●高校

- ・体験のみでなく、最初に障がいについてのお話しをしていただくことで考えながら体験することができた。

福祉実践教室教員向け研修会 日程表

日	時間	内容
8月2日(火) 社会福祉センター 第3活動室	10:00	あいさつ・オリエンテーション
	10:10	『発達障がい』 講師：自閉症啓発キャラバン Swing
	10:55	休憩
	11:05	『いじめ防止』 講師：ゲートキーパー リボン岡崎
	11:50~12:00	アンケート記入・終了

8月2日(火) 社会福祉センター 第3活動室	13:00	あいさつ・オリエンテーション
	13:10	『点字』 講師：点訳木曜会
	13:55	休憩
	14:05	『視覚障がい者ガイド』 講師：岡崎ひとみ会
	14:50	休憩
	15:00	『盲導犬』 講師：盲導犬利用者
	15:45~15:55	アンケート記入・終了

日	時間	内容
8月5日(金) 社会福祉センター 第3活動室	10:00	あいさつ・オリエンテーション
	10:10	『要約筆記』 講師：岡崎市難聴・中途失聴者の会 OHP おかざき
	10:55	休憩
	11:05	『手話』 講師：岡崎市聴覚障害者福祉協会 岡崎市登録手話通訳者
	11:50~12:00	アンケート記入・終了

8月5日(金) 社会福祉センター 第3活動室	13:00	あいさつ・オリエンテーション
	13:10	『高齢者疑似体験』 講師：高齢者体験サポータークラブ
	13:55	休憩
	14:05	『車いす体験』 講師：ぼくらの障がい知ってもらい隊 アンダンテ
	14:50~15:00	アンケート記入・終了

「福祉」の授業に取り組まれる 先生のためのハンドブック ～福祉教育プログラム集～

※ 学校保管

このハンドブックは平成 29 年の総合学習主任者会で全校に配布しています。
半透明のファイル（学校保管）をご確認ください。
なお、「もくじ」の差し替えと「実用例」の挟み込みをお願いします。



岡崎市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
はぴりん

社会福祉法人 岡崎市社会福祉協議会
ボランティアセンター

はじめに

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会（以下、「社協」という。）では小学校、中学校、高等学校を対象に福祉実践教室を実施しています。福祉実践教室は、障がい者・高齢者などの当事者やその支援者と児童・生徒がふれあいながら、実際に障がい者や高齢者の疑似体験をします。様々な人が暮らす地域社会で相手の立場を理解し、思いやりの心を育む「人にやさしいまちづくり」として日常的な福祉活動を実践するための契機となるよう開催しており、多くの小学校、中学校、高等学校で実施されています。

今回、岡崎市教育委員会および福祉実践教室講師団体の皆様に御意見をいただきながら作成したこの「福祉」の授業に取り組まれる先生のためのハンドブックは、誰もが普通に共生できる社会を目指すノーマライゼーション※1の考え方や、当事者の生活機能に着目し、その方の強みや取り巻く環境にも目を向けるICF（国際生活機能分類）※2の視点を意識し、疑似体験や当事者の話を中心に、事前の学習と事後の学習を含めた児童・生徒の気付きを発展させる福祉教育プログラムを提案しています。

児童・生徒が気付きを通して共に生きる力を育み、地域の一員として福祉への自発的・主体的な関わりが持てるようこの福祉教育プログラムを御活用いただければと思います。

よろしく

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会

お願いします！

もくじ

第1章 福祉教育プログラムのねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい・・・・・・・・・・ 2
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい・・・・・・・・ 3

第2章 福祉教育プログラム実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第3章 福祉教育プログラムの基本プラン

- プラン1：「ふくし」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ1-1
プラン2：「高齢者」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ2-1
プラン3：「車いす」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ3-1
プラン4：「視覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ4-1
プラン5：「聴覚障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ5-1
プラン6：「発達障がい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ6-1
プラン7：「赤い羽根共同募金」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ プ7-1
プラン8：「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」・・・・・・・・・・・・ プ8-1
プラン9：「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」・・・・ プ9-1
全プログラム共通：福祉教育プログラムふりかえりシート

様式集

用語集

※1 ※2 用語集

第1章

福祉教育プログラムの ねらいと特徴

- 1 福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい
- 2 学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

福祉教育プログラムと福祉実践教室の特徴とちがい

【福祉教育プログラムの特徴】

福祉教育プログラムは「ふくし」、「高齢者」、「車いす」、「視覚障がい」、「聴覚障がい」、「発達障がい」、「赤い羽根共同募金」、「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」、「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」の9つの基本プランがあり、事前学習、体験学習、事後学習を一連としたプログラムとして考え、児童・生徒が障がい当事者や地域活動者と一緒に福祉についての学びを深めます。

福祉教育プログラムには事前学習と事後学習も含まれているよ！



【福祉実践教室の特徴】

福祉実践教室は「車いす」、「点字」、「視覚障がい者ガイド」、「盲導犬」、「手話」、「要約筆記」、「高齢者疑似体験」、「発達障がい」、「いじめ予防」の9つの体験内容があります。事前学習や事後学習は学校の先生が独自で行い、体験学習を社協から派遣する講師によって行っています。

疑似体験を通して、先生が行う事前学習や事後学習の学びを深めます。

【福祉教育プログラムと福祉実践教室のちがい】

	福祉教育プログラム	福祉実践教室
講師料	不要	不要
打合せ回数	状況に応じて	1回
実施日数	希望に応じて	1日～3日
授業の選択内容	9つの基本プラン	9つの体験
授業内容の自由度	高い	低い
授業計画の作成	社協	学校
体験用具の貸出	あり	あり
事前学習	あり	なし
体験学習	あり	あり
事後学習	あり	なし

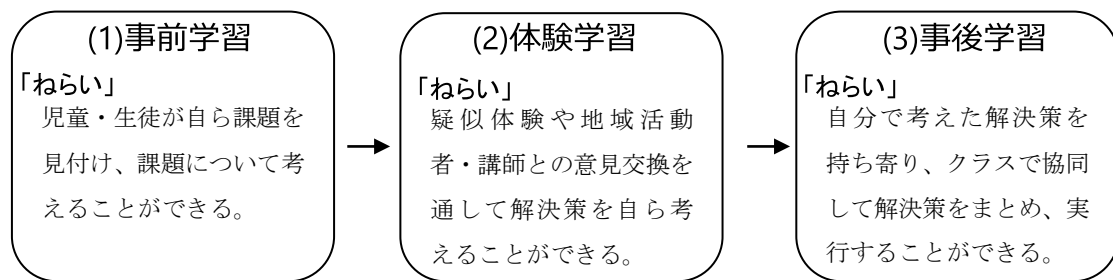
学習指導要領と福祉教育プログラムによる学習のねらい

【学習指導要領と福祉教育プログラムの関係性】

1. 学習指導要領(総合的な学習の時間)の目標は、五つの要素から構成されています。
 - (1)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと。
 - (2)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること。
 - (3)学び方やものの考え方を身に着けること。
 - (4)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること。
 - (5)自己の生き方を考えることができるようにすること。
2. 福祉教育プログラムは3つの段階に分けて学習します。
 - (1)事前学習では、地域で私たちと暮らす障がい者や高齢者の生活に焦点をあて、個人ワークを行ったり当事者の話を聞いたりします。
 - (2)体験学習では、疑似体験や児童・生徒同士、地域活動者、講師と意見交換を行います。
 - (3)事後学習では、今までの学びや考えた解決策をグループワークや発表で共有し、今後の活動に繋がります。

下図の通り、本誌は学習指導要領の目標（五つの要素）に沿って作成しています。

〈図〉



「目標」

地域で暮らす障がい者や高齢者を理解し、
地域の一員として自分や地域で何ができるかを考え、共に生きる力を育む

【使いやすい福祉教育プログラム】

プログラムの実施にあたり、総合学習の時間で「福祉」を選択される先生が持つねらいや希望の学習内容を社協担当職員が聞き取りながら、一緒に独自のプログラムを作成していきます。プログラム作成の事務的作業は社協担当職員で行うため、学校業務で多忙な先生の負担を極力減らすことができます。

また、講師の講話や疑似体験を通して児童・生徒が命の大切さや生きる力を学ぶことができるため、総合的な学習の時間のみでなく、道徳や特別活動等の他教科における指導計画と関連付けてこの福祉教育プログラムを活用してください。

福祉の授業に取り組まれる先生は、まず社協にご相談を！



【福祉教育プログラムのこれから】

今回作成した福祉教育プログラムは実施校からのアンケートや講師からの意見をもとに随時、修正や追加をしていきます。今後は地域の福祉施設に訪問したり、地域活動者と一緒に地域で活動してみたりといった新たなプログラムの開発や今あるプログラムの発展に取り組んでいきます。

第2章

福祉教育プログラムの 実施にあたって

- 1 福祉教育プログラムの活用方法
- 2 福祉教育プログラム実施の流れ
- 3 福祉教育プログラム相談チェックシート

福祉教育プログラムの活用方法

福祉教育プログラムの基本プラン1～9は福祉実践教室の実施が多い小学校5年生を対象に作成していますが、小学生から高校生までの**希望する学年に合わせたプログラムを先生の要望を聞き取りながら一緒に考えていくため、小学校・中学校・高等学校と幅広く実施することができます。**

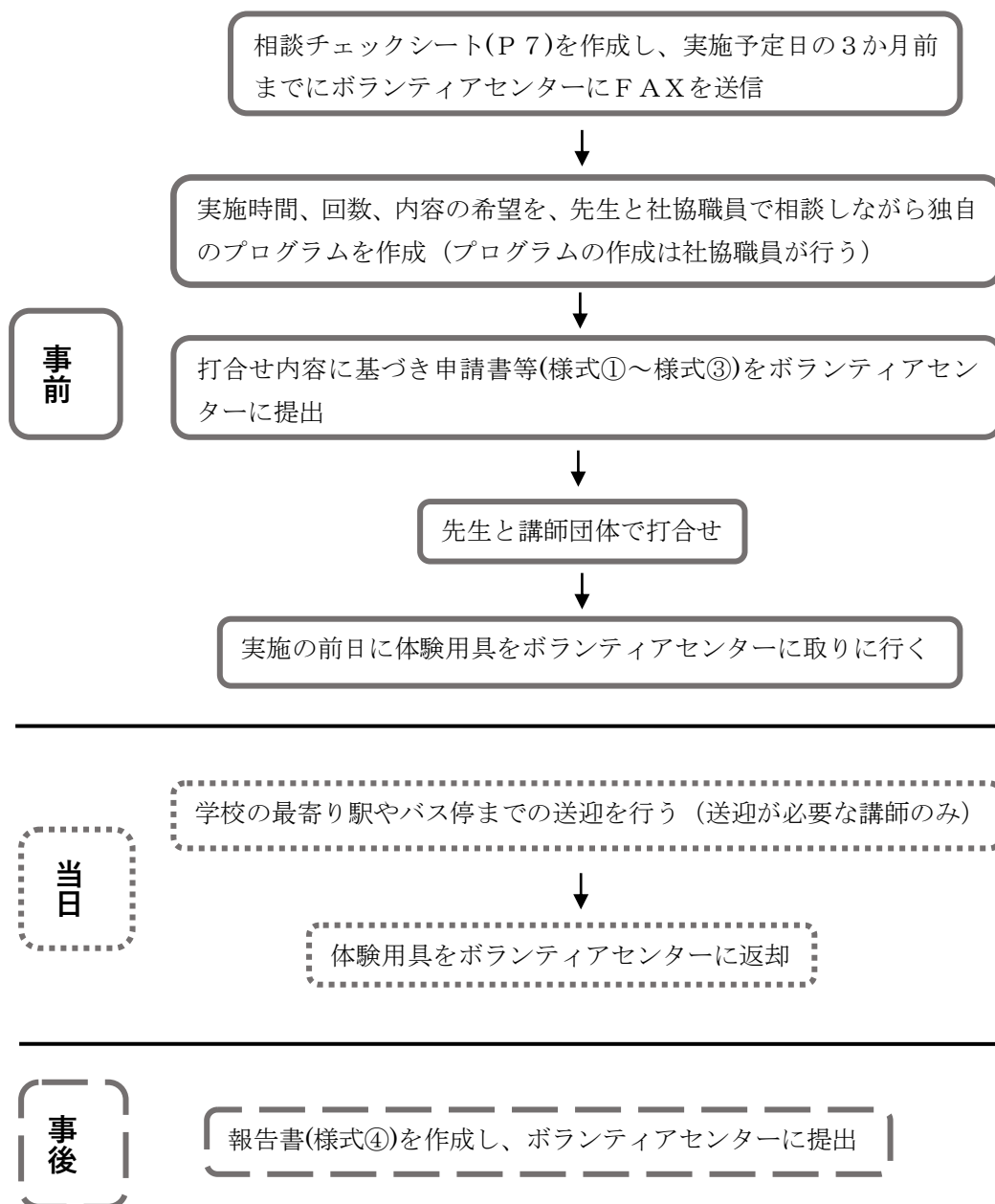
また、福祉教育プログラムの基本プランには時間や回数が記載されていますが、**学校の希望する時間や回数にできる限り合わせながらプログラムを作成することも可能です。**

福祉教育プログラム実施の講師派遣に係る費用(講師料や交通費)は、社協で負担しますので授業で使用する備品等の準備のみで実施することができます。

先生と一緒に福祉の授業を考えます！



福祉教育プログラム実施の流れ



福祉教育プログラム相談チェックシート

福祉教育プログラムを活用していただく前にこのシートを作成し、社協に送信してください。このチェックシートをもとに打ち合わせを行います。

まずはお気軽にご相談ください。

学校の情報	_____小学校・中学校・高校 学校の電話番号_____ F A X _____ 担当の先生の氏名 _____ 先生のメールアドレス _____
目的・ねらい 子どもたちに伝えたいこと 学ばせたいこと	
希望する内容	<input type="checkbox"/> ふくし <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> 視覚障がい <input type="checkbox"/> 聴覚障がい <input type="checkbox"/> 発達障がい <input type="checkbox"/> 赤い羽根共同募金 <input type="checkbox"/> 防災を通して地域の支え合いを学ぶ <input type="checkbox"/> 避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える <input type="checkbox"/> その他
実施予定日 現在の予定	【時期】 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 1学期 <input type="checkbox"/> 2学期 <input type="checkbox"/> 3学期 【回数】 <input type="checkbox"/> 2回講座 <input type="checkbox"/> 3回講座 <input type="checkbox"/> それ以上 ____回講座
対象と人数	<input type="checkbox"/> 全校で行う 約____名 <input type="checkbox"/> 学年で行う ____年生 約____名 ____クラス <input type="checkbox"/> 学級で行う ____年__組 約____名 <input type="checkbox"/> その他 _____
その他	福祉教育で悩まれていることなど、どんな事でもご自由にお書きください。

【相談チェックシートご提出先】

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒444-0022 岡崎市朝日町3-2 福祉会館2階

TEL/FAX : 0564 - 21 - 5377 E-mail : okashavc@m2.catvmics.ne.jp

ご連絡をお待ち
しています！



第3章

福祉教育プログラムの 基本プラン

プラン1：「ふくし」

プラン2：「高齢者」

プラン3：「車いす」

プラン4：「視覚障がい」

プラン5：「聴覚障がい」

プラン6：「発達障がい」

プラン7：「赤い羽根共同募金」

プラン8：「防災を通して地域の支え合いを学ぶ」

プラン9：「避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える」

全プラン共通：福祉教育プログラムふりかえりシート

高齢者


【モデル対象】 小学校5年生

【時間】 90分×3回

ねらい


高齢者が当たり前で生活できる地域社会の実現のため、地域の一員としての使命と役割があることを認識し、自覚が持てるようになる

学習計画

	授業テーマ	想定講師	学習内容
①	高齢者の生活を知ろう	・社協職員 ・地域住民	・高齢になるとどうなるか ・地域での高齢者福祉を知る ・高齢者の生活を知る ・高齢者の福祉用具の紹介 ・困りごとを考える
①	高齢者疑似体験をしてみよう 	・講師団体	・2人1組になって疑似体験をする ・困りごとの検証 ・どうすれば困りごとを解決できるかグループ討議 ・自分たちにできることを考える
②	僕たち、私たちにできることを考えよう	・社協職員 ・地域住民 ・学校の先生	・まとめ ・グループ討議…グループごとに自分たちの感想、できること、意見等を述べる ・また、今後どうしていったら良いかを話し合う ・話し合いをまとめ、発表する ・評価

目標

- ・ 講話を通して、日常生活などの話を聞き、困りごとを考えることができる（関心・意欲・態度）
- ・ 自分やグループ、クラスで高齢者の困りごとや解決策を考えることができる（思考・判断・表現）
- ・ 体験を通して「加齢」を理解したうえで、自分たちにできることを考え、行動することができる（技術）
- ・ 高齢者の理解と自分たちの出来ることをまとめ、発表することができる（知識・理解）

ねらい・ポイント	準備物品	先生へのお願い
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のイメージをつかめる ・ 高齢者の生活を知る ・ 加齢のために困ることを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ分け
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の特徴や不便さを感じる ・ 困りごとを解決する方法を考える ・ みんなの前で意見を述べるができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 自分たちができることはあるのか考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験用具 ・ 模造紙 ・ 付箋 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要物品の用意 ・ 児童のペア組み ・ 体験コースの決定
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のことを理解し、感じたこと、できることをまとめる ・ みんなの前で発言することができる ・ 思いや考えが違っていても、受け入れ、歩み寄ることの大切さを知る ・ 地域の一員としての使命と役割を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙 ・ マジック ・ 画用紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要物品の用意 

① 高齢者の生活を知ろう 90分

目標

「高齢者とは」を学び、高齢者が生活の中でできること、大変なことをイメージする

想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域住民

備品：福祉用具

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齢になるとどうなる？ ・高齢になると体や心はどうなるかを考え、発言する	10	・家族や近所の高齢者をイメージさせ、体や心の変化を感じられるようにする ・心の面は思いつきづらいので様子を見てヒントを出す ・意見が出ないときはクイズにする
◎地域での高齢者福祉って？ ・地域での福祉活動について話を聞く	20	・学区福祉委員会の存在を伝える ・地域で実際に活動している人の話を聞き、持っていたイメージと実際の違いを感じさせる ・地域の高齢者の現状と、それに関わる活動の内容や大変さを伝える
休憩	5	
◎高齢者の生活を知ろう ・高齢者の生活の話を聞く ・高齢者が生活の中で感じる困りごとや思い通りにいかないことなどの話を聞く	10 10	・話のなかで知っていたこと、知らなかったことに気付かせる ・高齢者が感じる苦労や、思い通りにいかないことなどを聞き、高齢者が持つ困りごとに気付かせる ・地域に住む高齢者がどんなことに困っているのか感じさせる
◎できること、大変なことを考えよう ・自分たちと同じところや違うところを挙げる	20	・グループに分ける ・できることの気付きを大切にコメントする
◎高齢者が使用する福祉用具って？ ・高齢者が使用する福祉用具の説明を聞く ・使い方や効果の話を聞く	15	・あまり答えが出過ぎないように紹介は少しにし、使い方や効果、それぞれの福祉用具について気を付けることなどを伝える ・困りごとの解決にはいろいろな方法があり、福祉用具などの道具があることを伝える
◎高齢者の困りごとを考えよう ・高齢者が感じる困りごとや、児童自身が感じた高齢者が大変そうだと思うことを考える	宿題	・高齢者の持つ困りごとについてよく考えてもらうきっかけにする

②高齡者疑似体験をしてみよう 90分

目標

高齡者疑似体験を通して、高齡者の特徴や不便さを実体験する
前回考えた困りごとに対して解決策を考える

想定される講師と準備物

講師：講師団体
備品：高齡者疑似体験セット、模造紙、付箋

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎高齡者疑似体験をしてみよう ・部分的な体験の中から好きなものを選び体験する	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・体験が遊びにならないように、体験の目的や意味をしっかりと伝える ・高齡者が感じる大変さや解決策のヒントを得るために考えてきた困りごとを実体験させる
休憩	5	
◎困りごとの解決策を考えよう ・グループに分かれ、一人ずつ自分が思った困りごとを発表し模造紙に書く ・グループで、誰が書いた困りごとでもいいので、思いつく解決策を付箋に書いて貼る	2 5	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな解決策を取り入れられるよう困りごとをグループで共有させる ・1つの困りごとに関してみんなで考えることで、グループ全員がより多くの困りごとや解決策を知り、考えることができるようにする
◎発表しよう ・みんなの前で、グループで挙げた困りごとと、付箋に書かれた解決策を発表する	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに知識を深めるために、グループで話し合ったことを他のグループに伝えられるようにする ・グループでの考えの違いや解決策の違いの中で、方法は違っても受け入れ、歩み寄ることの大切さを感じさせる
◎宿題について ・場面設定や環境の説明を聞く	5	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が、できることを考えやすいよう場面を設定する
◎自分が高齡者にできることを考えよう ・グループで挙げた困りごとの解決策を見て、実際に自分にできることは何か考える ・自分にできること、自分には難しいがお父さんやお母さん、地域の人ならできることを挙げてみる	宿題	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分にできることを考えることで家族や地域など、大人ができることを考えてもらうきっかけにする ・1日の復習の時間を作るために宿題を出す ・グループで出した解決方法をもとに自分なりにできることを児童主体で考えさせる

③僕たち、私たちにできることを考えよう 90分

目標

自分にできることを発表し、クラスメイトに紹介する
グループに分かれ、クラスとしてできることを考える

想定される講師と準備物

講師：社協職員、地域活動者、学校の先生
備品：模造紙、ペン、画用紙

プログラム

学習活動	時間	指導上の留意事項
◎自分ができることを発表しよう ・自分ができることをみんなに発表する ・いつ、何をやってみるのかを具体的に発表の中に入れる	30	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができることを発表し、これから取り組むことをクラスメイトに知ってもらう すぐに取り組めることを挙げることで、積極的に取り組むきっかけにする 難しいことではなく、簡単にできることを挙げてもらうように配慮する
◎社協職員、または地域活動者、または先生の話 ・発表に対しての感想を聞く	10	<ul style="list-style-type: none"> たくさん褒めることでやる気と興味を持ち続けるきっかけにする これからの高齢者福祉の参考になるよう、専門的な話を入れながら伝える
休憩	5	
◎クラスでできることを考えよう ・グループに分かれ、クラスでできることを1つずつ考える	25	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけでなく、クラスでできることを考えることで、協調性を身につけさせる 一緒に1つのことを考える大切さを感じさせる
◎クラスのできることをルールを作ろう ・グループで考えたクラスでできることを1つ発表し、画用紙に記入する ・すべてのグループのできることを記入し、できごとルールを教室に掲示する	20	<ul style="list-style-type: none"> クラスでできることを1つの紙に記し、高齢者と接するときには注意することや困っているときにできることを一人ひとりが確認できるようにする 一人ではできないことも、たくさんの人が集まればできることがあるということを感じさせる クラスで考えることで他の授業にもつながる

令和3年度 福祉教育プログラム実施状況

R3年度実績

小学校・・・7校
 中学校・・・1校
 高校・・・1校
 合計・・・9校
 (延べ開催日数68日)
 延べ・・・3,350人

R2年度実績

小学校・・・4校
 中学校・・・0校
 高校・・・1校
 合計・・・5校
 (延べ開催日数43日)
 延べ・・・2,357人

R1年度実績

小学校・・・5校
 中学校・・・0校
 高校・・・1校
 合計・・・6校
 (延べ開催日数35日)
 延べ・・・2,737人

【科目別】(延べ)

令和3年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし・ユニバーサルデザイン	10	10	556
高齢者	10	16	615
車いす	13	20	800
視覚障がい	13	21	719
聴覚障がい	15	21	620
発達障がい	1	1	19
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	16	17	255
その他(事前学習や事後学習など)	14	14	496

令和2年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし	2	2	230
高齢者	4	10	446
車いす	5	10	342
視覚障がい	9	13	393
聴覚障がい	7	10	249
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	14	14	84
その他(事前学習や事後学習など)	9	9	613

令和1年度

プログラム名	日数	時間数	人数
ふくし	3	5	166
高齢者	5	9	450
車いす	6	10	480
視覚障がい	4	7	183
聴覚障がい	6	7	388
避難所をモデルにユニバーサルデザインを考える	15	15	90
その他(事前学習や事後学習など)	10	11	980

【学校からの感想】（一部抜粋）

●小学校

- ・今回初めて福祉実践教室ではなく福祉教育プログラムを実施したが、当事者の方の話しや体験、まとめの部分までアドバイスをいただき子どもたちが自分にできることまで考えることができた。
- ・質問の時間を多く確保していただいたり、失礼ではないかと思うような質問まで丁寧に回答していただき子どもたちにとってリアルな福祉学習になったと思う。
- ・困っている人がいたら、学んだことを活かして声をかけられると思う。
- ・話し掛けるのには勇気がいるけど、自分にもできることがたくさんあるんだと思った。

●中学校

- ・生徒一人ひとりがよく考え行動するきっかけになった。
- ・講話の時間では生活について触れていただき、生徒は自分と照らし合わせて興味深くお話を聞いていた。普段聞けないお話しなのですごく刺激になった。
- ・困っている人がいたら、お手伝いができるようになることを目標にしていたが、先生のお話を聞いて、まずは声を掛けることが大切であると感じた。
- ・お話の時間で生活について聞いていたので、体験の時やまとめの時にイメージしやすかった。

●高校

- ・講師の先生のお話しの中で、マイナス面だけでなくプラス面のお話しをしていただけたので色々な生活の工夫をするなかで、苦手な所をサポートさせていただくことが大切ということを学ぶことができた。
- ・障害は環境・社会にあるとする考え方を学ぶことができた。
- ・学校の体育館を避難所としたときに、すべての人にとって使いやすい環境を考えるのはすごく難しかったが、色々な立場で1つのことを考えることができた。



社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会

〒444-0802

岡崎市美合町五本松 68-12

生活支援課 障がい係

TEL (0564) 47-8750

FAX (0564) 47-8753

【Eメール】

oka_sha_seikatsu@mics.ne.jp



岡崎市 手話通訳者 要約筆記者 派遣事業のご案内

※岡崎市内在住の聴覚障がい者の
コミュニケーションを支援します



りよう もうしこ
《利用の申込み》

※ 1週間前までに派遣申請書を提出してください。

(申請書は社協ホームページからダウンロードできます)

※わからないときはメール、FAXで相談してください。

※手話通訳者・要約筆記者には守秘義務があります。

じゅうたく
住宅

- ☆入転居などに関する話合い
- ☆土地、家屋の購入・修理など

その他

- ☆弁護士への相談
- ☆銀行・生命保険会社など
- ☆市及び市内福祉関係団体の主催する大会、
行事、会議など

しゅわつうやくしゃ
手話通訳者

厚生労働大臣認定手話通訳士及び手話通訳者全国統一試験合格者が派遣されます

ようやくひっきしゃ
要約筆記者

全国統一要約筆記者認定試験合格者及び要約筆記奉仕員養成講習会
応用課程の修了者が派遣されます

- 費用は岡崎市が負担します。
- わからないことは、メールまたはFAXで確認してください。

いりょう
医療

- ☆診療 ☆入院
- ☆健康診断など



こうてききかん
公的機関

- ☆公的機関へ相談、
申請、手続きなど



しゅうろう
就労

- ☆就職面接など



きょういく
教育

- ☆入学式 ☆卒業式
- ☆総会 ☆授業参観など

ちいきせいかつ
地域生活

- ☆冠婚葬祭
- ☆自治会等会合への参加

